

2月定例記者会見の概要

1. 日 時 平成31年2月4日(月) 9時30分～10時10分

2. 場 所 本庁舎3階 第一会議室

3. 出席者 <報道機関>

- ①朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ②NHK南相馬報道室 (南相馬記者クラブ会員)
- ③河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ④共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑤毎日新聞社南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑥福島民報社南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑦福島民友新聞社相双支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑧南相馬チャンネル

計 8 社

< 市側 >

- ①市長 ②林副市長 ③松浦副市長 ④教育長
- ⑤小高区役所長 ⑥鹿島区役所長 ⑦総務部長 ⑧復興企画部長
- ⑨市民生活部長 ⑩健康福祉部長 ⑪健康福祉部理事 ⑫経済部長
- ⑬建設部長 ⑭総合病院事務部長 ⑮小高病院事務部長
- ⑯教育委員会事務局長

計 16 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報係

【市政報告】

皆さんおはようございます。お集まりいただきありがとうございます。

先月26日には、小高区復興拠点施設「小高交流センター」の開所式が開催されました。

足元の悪い中、渡辺復興大臣、鈴木副知事をはじめ国会議員、関係者の皆様にご臨席いただき、開所式典を開催することができました。

おかげさまで、開所日を含め、オープン2日間で約5千人の方々に足を運んでいただき、盛況のうちにオープニングイベントを終わらせることができました。

記者の皆様におかれましても、取材のため足を運んでいただきありがとうございました。

小高交流センターが開所したことで、一区切りの思いはあるものの、ここからがスタートだと思っています。

帰還した住民が安寧に住み続けられ、帰還して良かったと思える地域となるよう、

旧避難指示区域の再生には、後期基本計画の復興重点戦略に掲げる方針に基づき、重点的に復興再生事業に取り組んで参ります。

また、小高駅東地区の大型ホームセンター「ダイユーエイト小高店」が6月に再開するとの報道もされたところであり、小高区の復興に弾みがつくことを期待しています。

2月2日には、復興「ありがとう」ホストタウン推進事業に係るジブチ共和国との記念モニュメント披露式典と、ホストタウンフェスタが開催されました。

記念モニュメント披露式典は、雲雀ヶ原陸上競技場で開催され、ジブチ共和国特命全権大使ご臨席のもと除幕披露されました。

続いて、サンライフ南相馬においてホストタウンフェスタを開催し、午前は「ありがとうジブチ共和国の部」、午後は「ありがとう台湾の部」と称して、いずれの部においても多くの市民の方々に聴講いただき、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた交流がさらに深まったことと思います。

今後の予定ですが、本日午後から東京へ出張します。明日5日(火)の午前9時30分から、国立大学法人東京大学との福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた連携協定を東京大学本郷キャンパスにおいて締結する予定です。

内容は、ドローン分野等に係る産業育成や人材育成面等での連携となっています。

同じく、5日(火)の午前9時には、小高区認定こども園の安全祈願祭が執り行われます。小高区の子育て環境の魅力を高め、住民の帰還を促進することを目的に、2020年の開所を目指し建設が進められます。こちらは、今村議長と松浦副市長に出席していただく予定となっています。

6日(水)には、南相馬市旅館ホテル組合と「福島ロボットテストフィールドの利用者支援の推進に関する協定」を締結することとなりました。

協定では、福島ロボットテストフィールド利用者への市内宿泊支援制度の充実や、促進に関して連携を行うこととしています。

福島ロボットテストフィールド利用者の支援を推進し、人材の市内への呼び込みを促進することによって、地域経済の活性化を図ります。

7日(木)には、第1回市議会臨時会が開催されます。4月1日付けで実施を予定する組織機構改革に関して、必要な条例の改正を行うものです。

9日(土)には、平成30年度第2回相馬野馬追保存会・執行委員会が開催されます。次年度の相馬野馬追の開催に向けての会合となります。

次年度の事業計画の提案・承認に合わせてポスターもリリースされます。次年度のポスターデザインを楽しみにしてください。

11日(月)から、台湾を3泊4日の予定で訪問してきます。今回の訪問には、4つの目的があります。

1つ目は、杉並区の提案により交流が始まった南投県竹山鎮との今後の交流について、意見交換や協議を行ってきます。

2つ目は、昨年末の市内中学生の台湾招待事業に対する御礼を行うため、台湾行政院客家(はっか)委員会を表敬訪問します。

3つ目は、「復興ありがとうホストタウン推進事業」に関連して、台湾オリンピック協会及び台湾野球協会を訪問し、これまでの交流の御礼を述べるとともに、今後の事業構築に向けて打合せを行ってきます。

4つ目は、台湾観光協会を訪問し、相馬野馬追等、本市の観光PRを行って参ります。

台湾との交流を今後も促進するため、以上の目的を達成し、親交を深めて参ります。

28日(木)には、市議会3月定例会本会議が始まります。

これにつきましては、本会議の開催前となる2月21日(木)に記者会見を予定していますので、その際に詳細な提出議案の説明や、記者の皆さまからのご質問にお答えしたいと考えています。

本日記者の皆様には『原町市史』第2巻 通史編Ⅱをお配りさせていただきました。

1月中旬から、市内書店の店頭にも並べさせていただいています。

原町市史編さん事業は、原町市制50周年を迎えるにあたり、平成9年度に始まり、約22年の歳月をかけ、今回の通史編Ⅱを含め、全11巻を刊行して市史編さん事業の幕を閉じることとなります。

早期の購入申し込みや、全巻購入による特別価格での提供も用意していますので、多くの方々に手に取っていただきたいと思えます。

全国的に猛威を振るうインフルエンザウィルスの感染について、先週は市立幼稚園や小・中学校で学級閉鎖が相次ぎましたが、2月1日現在、全ての学級閉鎖が解消されました。

公立保育園でも多くの園児が罹患しましたが、現在休んでいる園児数は、ピーク時の3分の1程度となっています。

高齢者・障がい者の福祉施設は、数カ所で罹患者が出たものの、1月末日現在で罹患者数ゼロとなっています。

市内での感染が拡大しないよう、手洗い・うがいの励行を呼びかけ、感染の拡大予防に努めていきたいと思えます。

私からの報告は以上です。各部長による報告のあと、皆さんからのご質問をお受けいたします。

【各部からの報告】

◆総務部

- ・第1回南相馬市議会臨時会市長提出議案の要旨

◆健康福祉部

- ・市職員の手話学習会の開催について

◆経済部

- ・市長の台湾訪問について
- ・南相馬市旅館ホテル組合との協定締結について

◆教育委員会事務局

- ・『原町市史』第2巻 通史編Ⅱの刊行について

【質疑応答】

質問1：

機構改革に関して、こども未来部を設けた理由を教えてください。なぜ、幼児教育課を教育委員会から独立させて市長部局へ持ってきたのかなど、また、これにより部長ポストは増えるのでしょうか。さらに職員総人員の増減を教えてください。

回答1：市長

まず、人員に増減はありません。教育委員会から100人を市長部局へ移動させる

のみで、総人員に変更はありません。

こども未来部は、教育と子育てを充実したいという思いから、選挙でも公約を掲げ、総合計画でも教育と子育ての充実をうたってきました。

これまで子育ては、市長部局と教育委員会で棲み分けがありましたので、子供たちのためにまとめた方が良いでしょうと考えたのが、創設した経緯となります。

一方で、教育面では教育委員会から外れますので、教育委員会との連携が必要になってきます。

総合的に考えて、家庭と幼稚園や保育園の教育を一体的に行うことが子供にとって有利と考えました。

質問 2 :

市職員の手話学習会の開催に関連して、市内で聴覚障がい者の方はどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。また、市職員で手話のできる人は現在どれぐらいいるのでしょうか。

回答 2 : 健康福祉部長

市内の聴覚障がい者の数と職員で手話のできる者の数については、後ほどお答えします。市内で手話のできる登録された人数は 19 名ですので、その範囲の数になるかと思えます。

回答 2 補足説明

平成 31 年 1 月 1 日現在の市内の聴覚障がい者数は、220 人。手話のできる登録された市職員は、2 人。

質問 3 :

南相馬市旅館ホテル組合との協定締結に関連して、具体的にどういった形で宿泊の支援をしていくのでしょうか。

回答 3 : 経済部長

まず、ロボットテストフィールドを訪問した研究者の数は、平成 27 年度が 300 人、平成 28 年度が 1,000 人、平成 29 年度が 4,000 人、平成 30 年度が 1 月末の段階で 6,000 人と年々利用者が増加しています。

組合と市が一体となり利用者ニーズを汲み取り、定期的な会合を設けるなど、対応していきたいと考えています。

これまでも市では、平成 29 年度からロボットテストフィールド利用者に対する支援として、宿泊費、交通費、レンタカー費用の助成、長期宿泊者に対する月単位でのホテル借上げ等の支援を行っています。

まずは、利用者の声に耳を傾け、具体的な対応を検討していきたいと考えています。

質問 4 :

そうすると、ロボットテストフィールドを現在利用している研究者は、すでに助成を受けているということでしょうか。

加えて、市内宿泊施設におけるネット予約とクレジットカード決済の可否の状況を教えてください。

回答 4 : 経済部長

まず、助成の対象となるのは、市内で様々なロボット実証事業を行うことが前提

で、裾野を広げるため大学や企業など、市と協定を結ぶことで対象に加えています。
宿泊客がロボットテストフィールドを利用している研究者と分かった際には、旅館側から助成制度の案内をしていただいているところです。

旅館ホテル組合は、会員が13社で組織されており、ネット予約可能なのは4社（後に6社へ訂正）程度と把握しており、市としても今回の協定を機に、ネット予約の導入を図っていきたいと考えています。

質問5：

報道に出ましたが、小高区常磐道の除去土壌の再利用に関して、羽倉行政区の役員さんたちが地元で反対運動を展開していることについて、市長のコメントをお願いいたします。

回答5：市長

ご質問の状況を、私も本日の新聞で知ったところですので、詳細は存じ上げておりません。2社の新聞報道を目にしました。

市として再生利用に関して、実証事業としての基本的な方針を理解したと環境省へお答えしました。住民理解が必要となるので、丁寧な説明を心掛けてくださいと環境省へお願いしたところです。環境省から要請を受けた側としてそういった立場となっています。

こうした経過を経て、環境省が地元を伺い、役員会が開かれたとの報道であったと理解しています。報道によれば、今後は、市長に対する要請なども予定されているとのことでしたが、まだ直接の連絡はありません。

地元の理解が必要だと考えていますので、今後も推移を見守りたいと思います。